2014 年 9 月タイ･チェンマイ高齢者･福祉施設視察 Report by Y.Yamanaka

期間：2014 年 9 月 7 日(日)～11 日（木）
主催：(現地) Hiro Asian Project、Chiangmai
為替：1 バーツ≒3.4 円

※チェンマイ
タイ第二の都市、タイの京都ともいわれる盆地の中に四角い田の字エリア。以前からメディカル・ハブ構想や外国人の療養施設などの計画が多い。物価はバンコクに比べ 8 割位か。　（山中は全行程 8 日のうち 3 日だけ参加）

●タイと日本の基礎的情報比較

2013 年基点

	タイ	日本
面積	51 万 3,120ｋ㎡	37 万 7,915k ㎡
人口	約 6,823 万人	約 1 億 2734 万人
高齢化率	11.9%（2011）	25%（2013）
	―	29%（2020）
	25. 1%（2030）	32%（2030）
平均寿命（男）	71 歳（2012 年）	80 歳（2013 年）
平均寿命（女）	79 歳（2012 年）	87 歳（2013 年）
合計特殊出生率	1.41（2012 年）	1.41（2012 年）
1 人あたり GDP	5,674ＵＳ＄	38,491ＵＳ＄
所得税	10～37%	5%～40%
消費税（付加価値税）	7%	8%
医療費	30BT 医療（※）	自己負担あり
介護サービス	公的制度無	自己負担あり

●人口　チェンマイ県（約 168 万人）　チェンマイ市（約 14 万人）

1　30BT

1997

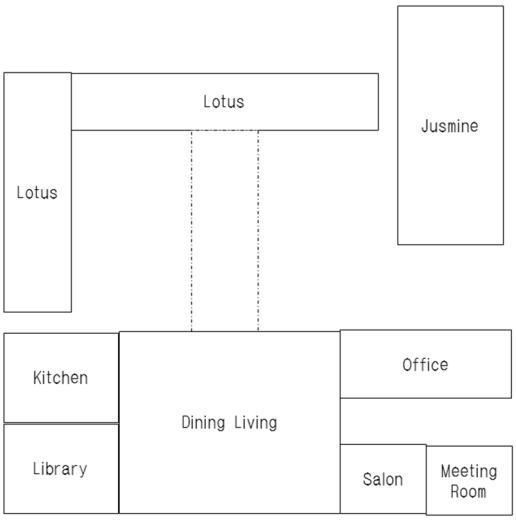
99.9　　20　　1

200　　8

３．　Dok Kaew Gardens　（私営老人ホーム訪問）

●2014 年 9 月 8 日（月）13：30～15：00
Mckean 財団グループのひとつ。私営老人ホーム。
欧米人（豪州？）の経営。基点は 100 年前？のハンセン氏病の隔離病院から。
チェンマイ郊外の広大な敷地（どれくらいあるか不明、森とかも？）内に、病院や各種施設があり、ここは高齢者のための私営ホーム。

全体的に色調が白く、なんとなくプライベート・ホスピスなイメージ。キレイだが、若干冷たさを感じる。タイにあって欧米の雰囲気。
案内してくださったのは、Holly さん（女性、西洋人）



施設は自立棟（Lotus）と特別棟（介護棟のこと、Jasmine）に分かれる。全部で 19 室。図書室、美容サロン、談話室など共有スペース。5 分のところにリハビリ病院があり、服薬管理や緊急対応は病院の看護師が対応する。介護職員は 10 名常駐。
特別棟はほとんどがアルツハイマー病。入居者は欧米人中心（アメリカ、ドイツ、オーストラリア等）、日本人は現在 4 名、タイ人は 2 名。

入居一時金（これは海外で表現が難しい）は無で、デポジットで月額費用の 2 ヶ月分。退居時に全額返還。
月々の費用は Lotus が 3.2 万 Bt（約 11.2 万円）。Jasmine が 4.5 万 Bt（約 15 万 7500 円）。食事も介護も他サービスもすべて込。ただし頂いた料金表を見ると、特殊なマネジメント＝重度の認知症？は別途 4 千 Bt／月、送迎、電動マットレス、車椅子、消耗品などは別途）　タイ人はお金持ちでないと無理な金額。

現在入居者の最高年齢は 96 歳。自立棟→介護棟への移動もあり。寝たきりには対応できないので、その場合はグループ内の病院へ行くことに。
ショートステイの対応も OK。1 日～数週間など。家族の旅行の時に預かるなどもしている。アクティビティは簡単なもの。食後のあとの体操や散歩。（敷地内はほぼ森なので）

入居者は、元々チェンマイ（タイ）に住んでいた人もいるが、海外から来る人も。VISA は、リタイアメント VISA やメディカル VISA を使う。最近全体的に VISA 取得が厳しくなっているが、施設側が責任をもって全員の VISA コントロールをする。

利益はグループでも単体でもきちんと出ている。この施設は開設 5 年目。現在の入居者の 2 人は開設当時からいる。看取りもあり。病院には火葬場もある。
財団としての運営のため（元々クリスチャン系）、口コミでの入居が多いが、雑誌への広告、道路の看板広告なども出している。見学者は「自分の老後のために」という人がほとんど。仕事の視察で来た人も「自分のこと」で考える人が多い。
安全が第一。その点は自信をもっている。タイ人の職員は優しいので、ストレスなどはないと思う。高齢者を敬う気持ちが大きい。職員管理には問題はない。（タテマエのコメントかも？）

視察中、日本人入居者の一人（S さん：男性）と少し話す。認知症状あり（レビーかも、パーキンの特徴あり）。
Holly さんに聞くと、親戚がチェンマイで会社をしており、その人が S さんを日本から呼び寄せた。日本の介護施設も見て回ったが、こちらのほうが絶対に環境が良いと思って。なので、S さんはいきなり介護のためにタイに来た様子。
（あまりきちんと聞けなかったので、深い事情は不明）

食堂兼リビング：全体的に白い壁、白いドアで白い建物。風通しはよく明るいが、病院っぽい？。
庭はかなりキレイに整備されており、訪問時もガーデナーが入って植栽整備をしていた

Lotus と Jasmine はウイングが分かれる。共有スペースは、ファミリールーム、理美容室、図書室、ミニ販売コーナーなど。

右写真）中身はスナックやカップめんなどのミニ販売

居室はたぶん 30～35 ㎡程度のワンルームにトイレ・シャワールーム。かつて訪れた台湾の介護型有料老人ホームの印象に近いか。
自立棟といってもキッチンがあるわけではなく、単に機能別にしているだけで、基本は同じ作り。

緊急通報は、ベッドサイドのナースコールとトイレにあるボタン

家具やエアコン、テレビは全部備え付け。長期で入居の場合、自分の家具の持ち込みも OK。
必要に応じてギャッジベッドもあり。

介護職員は、Jasmine に滞在。
左）部屋別にわかる緊急連絡ボード
右）職員の勤務時間帯ごとの名前
24 時間介護

指定席になっている様子。食堂も自立／介護で分けていない
簡単なアクティビティ(リハビリ)グッズ

ちなみに Jasmine のメイン玄関以外は施錠。理由はアルツハイマーの人が多いから、だそう。

施設内に手すりがどこにもない(トイレ以外)。理由を Holly さんに尋ねたが「わからない」。通訳の方の話では、介護しすぎてここではすぐに弱ってしまう。手すりのない理由は職員が介助しすぎているからかもしれないとのこと。リハビリ病院系列なのに、不思議な現象…。

４．　Nakornping Aphaibalkett Nurse Aide School　（看護助手専門学校訪問）

●2014 年 9 月 8 日（月）15：30～16：30
今回通訳で付いてくださっている方が先生をしている学校。看護助手とは、日本に該当する資格がないが、ヘルパー2 級＋α？。国の認定資格としてきちんとあり、学校も教育省認可の指定校。半年のカリキュラム。とはいえ、それほど人気がある資格でもない様子。タイは大学への進学率は高くなっているものの、経済環境がよくないので就職も難しい。中卒、高卒がほぼ半分ずつだが、大卒で資格取得する人もいる。試験はない。修了で OK。

授業料は、半年で 3.8 万バーツ（約 12 万 9 千円）

医療行為はできないが、経管栄養や摘便などは可能（日本でいう特定介護福祉士のようなもの）
2010～11 年位は生徒数が 100 名超えていたが、2013 年は 77 名、去年から急激に景気悪化（おそらく政変等）で、今年は 17 人しか生徒がいない。卒業生はおもに病院へ就職。学校で保健室の先生もできる。ここでは、E-learning も可能にした（実習はスクーリング）。e-learning で 10 人卒業。
卒業生の介護派遣などはできないので（ビジネスとして）、個人的に「紹介」をボランティアでしている。大変。ある意味ケアマネ的な仕事をしている。
在宅介護…基本的に家族介護の国なので、タイ人の訪問介護というよりも外国人がほとんど。「介護事業所」なるものは、日本のイメージとは違い、派遣紹介のようなもの。コミッションとして 1000 バーツほど取っているのが普通の様子。学生では卒業して介護ビジネスをしたいと言う人もいる。日本と異なり、介護ビジネスをしたい場合は一般の会社を作るのと同じ。単なる法人扱いなので、認可や事業指定などは必要ナシ。

VIVO BENE Ltd.　スイス？の会社？　12 月に「リゾート介護」、ホテルのマネージャーをしていた人が支配人。介護職の募集で学校と提携中。1 ヶ月の給料は 1 万バーツ以上を予定。英語やドイツ語ができればさらに 2～3 千バーツ上乗せ

★訪問介護相場

	病人（昼間）	病人（夜間）	高齢者（自立化）	幼児
8 時間（月給制） 休日（4 日／月）	11,000B／月 （約 37,400 円）	12,000Ｂ／月 （約 40,800 円）	9,000Ｂ／月 （約 30,600 円）	10,000Ｂ／月 （約 34,000 円）
12 時間（月給制） 休日（4 日／月）	15,000B／月 （51,000 円）	17,000 円／月 （約 57,800 円）	13,000Ｂ／月 （約 44,200 円）	14,000Ｂ／月 （約 47,600 円）
8 時間（日給制）	600Ｂ／日　（約 2040 円）			
12 時間（日給制）	900Ｂ／日　（約 3060 円）			

★住み込み介護

	重病ではないが自立不可	経管栄養、たん吸引利用者	高齢者（自立化）	幼児
12 時間以内（月給） 休日（4 日／月）	18,000Ｂ／月 （約 61,200 円）	20,000Ｂ／月 （約 68,000 円）	13,000B／月 （約 44,200 円）	14,000Ｂ／月 （約 47,600 円）

５．　Thammapakorn Social Welfare Development Center　（国立老人ホーム訪問）

●2014 年 9 月 9 日（火）10：00～14：00

本来は、9：30 より「Piyamal Elderly Service Center（公営老人デイサービスセンター）」の予定だったのが、出発してから「今日はお休みとの連絡が入る」。日本で何度も確認、前日も確認しているのにとのこと。「これがタイですから」　仕方ない。とはいえ、日本が実はこれから目指そうとしている小規模の地域コミュニティ（行政、職員、地域住民など）がうまく運営しているところだそうで、主催者の方も「本当は一番見てほしかったところ」らしく、非常に残念…

最初にＪＩＣＡから赴任中のＰＴのＨさんが、いろいろ説明してくださる。

＜H さんによる説明＞

設立 59 年目のホーム。現在 100 人強が入居。感覚的には 60%が自立、20%が軽度の要介護、20%が重度の要介護。認知症は 10～15%程度ではないか。要介護の要因は、脳梗塞が 10%、他に交通事故や関節疾患が多い。入居条件は、タイ国民であり、扶養家族や資産のない人。審査がある。利用者は全て無料、国から 1 人あたり 2 万バーツ／月、出ている様子。

職員は 50 人ほどいるがほとんど事務職員？看護師も 1 名いる。看護助手（資格者）はおらず無資格が介護職として働いている。介護でいい人材はあまりいない。介護職は地位が低い。現在、日本（国）からＬＴＯＰというプロジェ

クトが来ており、介護技術や仕組みを構築し、介護サービスのモデルを作ろうとしているが（2017 年迄）、難しい。資格制度を認知させていきたいようだが…。
　リハビリ担当職員はもともとおらず、ＪＩＣＡから H さんが来ているが、チェンマイ大学の学生も午前中は軽いリハビリ実習に来ている。H さんの勤務時間は 8:30～16:30（月～金）が標準で、個別対応として 1 日に 7～8 人見る。

　基本は家族介護なので、他者に頼むのは、メーバーン（家政婦／ミャンマーや山岳民族などの超低所得層が多い）。しかし、全く介護になっていない。正しい介護を指導しないといけない。日本人ロングステイヤーにも介護の問題は少し出てきているが、問題が出れば日本に帰るというのが基本。本当はタイにいたいだろうが。勉強会なども開いているが、「わかってはいるけど、自分はまだ…」「そのときがきたら」の感覚。このままでは、まずいと思う。

　（職員について）あまり仕事熱心とは言えない。他の仕事では「それは私の仕事じゃない」という感覚が多いか。H さんが、介護の仕方を絵にして壁に張ったり、カルテを作ったり（アセスメントとか、関係職員が集まるカンファレンスがない）、評価表を作ったりしている。個人メニューの開発、体操ＤＶＤ作成、問診票の作成、指さしイラストでできるように（文盲の高齢者も少なくない）。リハ科の大学生指導も行う。1 週間バンコクへ出張などすると、その間完全にリハがとまるので、帰ってきたら急激にダメになっている人もいる。誰も代りにリハを引き継ごうとはしない（看護師も）。

　予算がないので、使わなくなった装具など日本からもらう。できるだけサイズが合うのを選ぶ。介護棟のベッドが高すぎ（高さ）で、現在パラマウンドベッドとＪＩＣＡで導入取り組み中。ＰＴはエリート（大学のリハビリ科）だが、まず病院勤務。インテリ層で勉強はよくできるのに、現場であまり使えない。一部の人はしっかりしているが。リハビリを介護に使う発想は今はない。（看護師も同様）
　さらに、本人、家族、介護職なども「リハビリはしんどいし、痛いし可哀そう」「もうトシなんだから無理をしないでいい」「困っているならやってあげたらいい」という考えが根強い。現在リハ提供は、希望する人が中心。だからすぐ寝たきりになる。「歩けると旅行に行けるよ」「トイレに 1 人で行けるよ」というと、そうなりたい。でも何か努力するのはいや。それならしないほうがいい。

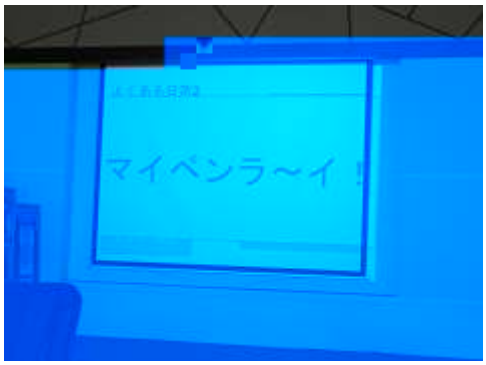
　介護職員の仕事は、食事補助、洗体、薬を飲ませる、オムツ交換だけ。入居者が「水を飲みたい」と言っても対応するのがイヤという状態。入居者は自立の場合は何でも自分でする。介護の重い人は放置するのであっという間に寝たきりに。動ける人を過剰に手伝う傾向がある。研修などもあるが、書類社会なので形だけのとろこも多い。「リハビリ」はタイの文化と真逆のこと。

　看護師は 4 年生大学、試験、5 年に 1 度の更新試験。結構厳しい。更新できない人は病院で仕事ができない。
　この国営施設の職員は、国の公務員、県の公務員、施設の直接雇用と 3 分類がある。公務員は保障が手厚い。

＜看護師・所長への質問など＞
　非常に優等生的な答えばかりが帰ってくる。

＜施設＞
　自立棟・・・男女別に 2 室あり、1 室定員が 40 名。介護棟（1 室男女混合）・・・24 名。　職員は自立棟 1 名（夜間も 1 名）、介護棟は 3 名（夜間 1 名）　自立棟にも要介護 3～4 レベルの人はいる様子。職員 1 名で対応できる理由は、元気な高齢者が要介護者を支援するから。キッチンに 2 名スタッフがいるが、やはり自立高齢者が手伝っている。
　入居者は基本、家族がいない、家族が見放している人ばかり。まず面会などに来ない。職員は絶対的地位。クレームが出るはずがない（家族の関与がない）。入居者も意地悪されたくないので、職員にたてつかない。
　一方で、入居者は意外と楽しそうで自由にしている。カギも施錠もなくあけっぴろげ。外に簡単に出られる環境だが、認知症の人でも徘徊や暴力、不潔行為などの問題は一切ない。自由が一番？意外と本人たちは幸せ感大きい気がする。介護棟は待機者が 3, 4 人いるが、自立棟はない。（まだ少し空きがあるくらい）　医師は月に 3 回来る。

　パワーリハのマシンが結構あるものの、全部アウトドアに設置（H さんも理由がわからない）。しかもほとんど壊れている。使える部分だけ使うようにしている。どこかからの中古の寄付のようだ。



H “ ”
PP
PT
...

1

8 1
...
H

1

40
...

61
22
T 91
91
91

2

H

...

40

10

＜介護棟＞
写真不可だったので写真はナシ（後日、H さんの話では通常の視察では介護棟は見せていない。というか見せられないのだそう）。

驚きの介護棟。3 列に病院ベッド（高さがかなりある）が並び、仕切りも何もない。寝かせきり。昼食時だったが、寝たまま硬縮した女性がわずかに動く手で、手づかみでモノを食べていたが、誤嚥するのでは。H さんも誤嚥指導を伝えるもの、介護職などは気にしない。仕方ないので絵をかいて壁に貼っている。床に寝転んで（落ちて？）いる人も。悪臭はしなかったものの、環境は決してよくないのがわかる。トイレが 3 ヶ所、シャワーが 1 ヶ所。座ったままのシャワー。

※いずれの棟も当然ながら冷暖房はない。夜間は蚊帳が与えられるそうだが。

７．　Hiro Asian project　（ロングステイ視察）

●2014 年 9 月 10 日（水）9:00～12：00
現地で長年不動産会社を経営している日本人の A さん（奥さんはタイ人）のアテンド。8 年前の視察のときは高級コンドミニアムばかりだったので、今回の視察は、一般ロングステイヤーのレベルがわかって興味深かった。

①FURAMA（500 室強）　日本人ステイヤーが一番多いコンド（分譲／レンタルもあり）500 室あって 100 室が日本人。市内中心地のいい場所。24 時間セキュリティ（基本的に外国人のコンドは 24 時間警備員がいる）。2 階がフロントと共有スペース。コンビニやフィットネス（かなり大きい）、カフェ、レストラン、いくつかのショップ。4 階にはプールも。各フロアごとにドアロックがあるので、3 重のセキュリティ。見学はスタジオタイプ（45 ㎡）。バルコニーからの見晴が非常によい。11 月～2 月頃の寒い間だけ来る人が多い。

45 ㎡タイプ／レンタル月 3.6 万円、購入だと 500 万円　月の管理費は 2,400 円　　24 時間セキュリティ付

2　　24
1

45　1

②築 20 年（と思えないほどガタガタ、全然メンテされていない？）　普通の分譲マンション
タイ人もたくさん住んでいる普通のマンション。とはいえ日本人の感覚では、低所得層のアパートか？という印象。地理があまり把握できないけど、場所は非常によいところだそう。
35 ㎡程度？　購入の場合 150 万円

…

③サービス・アパートメント　（The Opium serviced Apartment）

ここなら長期レンタルしたいレベル。やはりチェンマイは価格が安いと痛感。昨年プーケットで同様のサービス・アパートメントに滞在したが、相場観が3～4 倍違う。フロントスタッフも英語ができるし、笑顔で接遇が高級ホテルなみに素晴らしい。
58 ㎡（1 ベッドルーム）　月レンタル 7 万円（＋光熱費は必要）、デイリーユースは 1 万円程度（全部込）

④名前不明（日本人の 50 代の女性が購入しているコンドミニアム）
現在一時日本帰国中という部屋に入らせてもらう。生活感そのまま。
80 ㎡と広いものの、使いづらそう。なぜタイはきちんとメンテナンスしないのかというほど、部屋の中の壁の破損や棚の欠落など…。
購入の場合　780 万円　レンタルだと月 68,000 円程度

ロングステイヤーは旅行でなく「住む」ので、このレベルが現実的なのだと思う。旅行視点で見ると見誤る。A さんに皆さんどういう暮らしをしているのか？聞いてみると、男性は毎日ゴルフ（1 ラウンド 1000Bt 程度、会員権は 15 万円位が相場／時価売却あり）、女性はフィットネスとグルメ。でもこんな生活だとどうかと…。

〇タニン市場視察
、大きな市場。ロングステイヤーも市場での買い物がほとんど。スーパーに比べるとだいぶ安い。10Bt(35 円程度)～。果物も袋いっぱいで 50Bt（175 円）程度。

8.　Thammapakorn Social Welfare Development Center　（国立老人ホーム／再訪）

●2014 年 9 月 10 日（水）12：30～16：30
他の視察メンバーは午後から全員チェンライ移動のため、脱落帰国する私は一人残り昨日の公営老人ホームへ。JICA から派遣されている PT の H さんにお世話頂く。

前日のタイ人職員（看護師・所長）の模範回答の裏側、その他 JICA や政府間の話など教えて頂く。日本など比にならないくらい書類社会でいろいろな課題も。前日の「お客様（視察）」対応も疑問か。

H さんの取り組みとしては、
・月～金（勤務時間は 8:30～16:30）勤務。でもかなり融通がきく。個人事業みたいなもの
・PT の仕事以外に、JICA のタイ支部の仕事や書類作成も多い
・タイにリハビリという意識がないので（本人、家族、職員、誰にとっても）啓蒙活動

何が大変かというと、職員間のコミュニケーション。日本の感覚は一切通じない。アセスメントやカンファレンスはない。
現在はチェンマイ大学のリハビリ科学生が実習として入居者へのリハビリもしているため、軽い人は学生にふっていて、難しいケースを担当するようにしている。1 人に 1 時間～30 分。学校では教わることも、現場ではしないことが多い。そんな中、孤立奮闘。自分なりにカルテなど作成。介護予防でオリジナルの体操 DVD も制作（もう 1 名近隣にシニア JICA の OT さんがいるので一緒に）→　可愛くていい感じ

■当日の実際のリハビリ

①69 歳男性　交通事故 1 回目に右足切断　交通事故 2 回目に左足損傷（病名が難しくてわからない、骨がもうダメで足が棒のようになって、骨が出っ張っていた）。義足を作っていたものの、痩せて合わなくなった。本人はもう一度自分で歩きたいという気持ちが強い。
→リハには積極的。
現在は介護棟入居。認知無。本来は介助あれば自分でトイレができるはずなのに、「介護棟は全員おむつ」というルールがあるので、オムツされている。

介助の仕方も介護士に指導するものの意に介さず…　車椅子は自走OK
義足と装具をつけて歩行練習。立ち上がり・座りの練習。いろいろ組合せ。風船バレーの相手として少しお手伝い。
Hさんから、何が悪くて、どういう理由でこれをするとどうなる、ということをとても丁寧に私にも教えてくださる。
もちろん利用者にもタイ語できちんと状況説明、しながら。一動作ごとに利用者に「評価」を言わせている。笑顔でジョークも交え。
汗だくになりながら（この暑いチェンマイでクーラーなし！）、1時間びっちり。

②60歳男性　脳梗塞（右マヒ）　担当時は梗塞を起こして3年目くらい。リハビリしていなかったので酷い状態だった。でも開始後1.5ヶ月で見るからに違う状態に。（重度に見えず、かなり姿勢もキレイ）FIM（？）１→４，５レベルに
この方も前向き。　リハビリルームではなく、まず部屋（40人の自立棟）に迎えに行き、アウトドアのマシンに。誰かの寄付ばかりらしく、しかもデジタル表示は壊れている。ランニングマシンを使って、右足のゆがみを直すHさんが上半身を矯正し、私が右足をまっすぐ前に出せるよう補助。やっているうちに、右足の力が弱まってスムースにまっすぐ出せるように。ちゃんと説明しながら指導している。利用者と私に同時通訳で喋るので、大変だったかと・・・

10m歩行速度もスタート時から18秒→12秒まで。
その後、リハビリルームへ移動して右手の引き伸ばし、右足むくみのマッサージ、ストレッチボードなど。
その最中に飛び込みのおばあちゃんが・・・。

③飛び込みのおばあちゃん
Hさん施術中だったので、私に何か訴えるけど、さっぱりわからない。でも何か困っている様子なのでとりあえず聞く。ボディランゲージから（背中が曲がっている）、右肩から右腕が痛いかしびれている、看護師室（リハビリルームの隣に、窓ガラスでつながっているので様子がすぐわかる）に行ったら、塗り薬をくれたけど（持っていたので）、クレームを言いたいらしい。訴えたいことは体調（右半身）不調と、看護師への文句の様子。
この方、北タイ語の方言がきつくてHさんも全然わからないとのこと。ただ、だいたい何が問題かわかるようで、右背中より肩、腕のマッサージ。最初痛がっていたおばあちゃんもだんだん表情変わって、上がらなかった腕が上がるように。だいぶよくなったのか、最後は笑顔に。薬はいやだったみたいで、結局開けずにお持ち帰り。

※アクティビティ
外部からボランティアの先生（日本人ロングステイヤーもいる）が、手芸や工芸も教えに来ている。教室に参加する人も。そこで作ったものは、バザーなどに出店して販売利益は本人の手元に。
趣味で手芸（手縫い）しているおばあちゃん

Ｈさん手作りのリハグッズ

その他

チェンマイは日本人ロングステイヤーも多いので、地元の日本人会と介護問題の研究会も立ち上げている。
若干感じていたが、第何次かのロングステイブームになりつつあるようで、今後彼らの「老後」の問題が出てくるとのこと。先日、日本人大使館で初の日本人高齢者の問題があったそうで、チェンマイからだいぶ離れた田舎地域の道に認知症でホームレス状態になっていた男性が発見された。どうも地元女性パートナーがいたようだが、捨てられたらしい。今後、このケースは増加するかもしれない、と。他国でも同様の問題が増加していくでしょう、とのこと。

短い時間のほんの少しの視察でしたが、どこの国にいっても、表面的には日本は「恵まれている」と思います。
でも、幸せなのか？
チェンマイの国営ホームは決してよくはない。でも入居者たちは文句もあるけど、幸せそうな表情で私たちにも常に笑顔で挨拶してくれました。庭で昼寝している人、数人が集まって喋っている人、カラオケしている人、読書している人・・・
認知症の人がこのオープンな空間でも外に出てしまうことなく、問題行動も全くない。
一方で、高額（？）私営ホームの入居者は国営ホームのような表情をしていなかった。
考えさせられるものがあります。